

---

# モンスターハンター～偽者の剣～

オヒテノー

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

モンスターハンター～偽者の剣～

### 【Zコード】

Z6440Z

### 【作者名】

オヒテノ一

### 【あらすじ】

初投稿です。投稿主は才能なんぞ皆無な中で書いております。お許しを。あらすじはひょんなことからハンターになってしまつたある男の子ががんばつていろいろなモンスターを狩つていく話です。ここ、おかしいんじゃない?といった所はドンドン教えてください。また、感想なんかうれちやうととても嬉しいです。批判でも嬉しいです。

プロローグ？（前書き）

まいしへお願ひこしますー。

## プロローグ？

PM5時35分

凍土にて

（・・はあー・・・疲れた・・・寒い・・・）

凍えきつた凍土で大きめの重いリュックを背負つているとある旅の商人はゲンナリしながらそう思った。

商人の名前は『ミライ』。

彼は今からユクモ村に行く予定だった。

（でも次に行くユクモ村ってところは確かに温泉が名物だつて聞いたことがあるから、あつたまつてから次の村に行こうかな）

と、呑気な事を考えながら歩いていると横からモンスターの鳴き声が聞こえた。  
怪物

彼は右の方を向いて少し考へると、

（この鳴き声はきっと『バギイ』だな。アイツらの吐き出す液はとても眠くなるんだよな。さつさと逃げよう）

そう思つて前を向いたミライだが目の前には例の『バギイ』がいた。

「チクショウ！－ もういやがるじやねえかよ！」

ミライは驚きつつも、全力で『バギイ』から逃げ出した。  
しかし彼の荷物はとても重く、はつきり言つて絶望的なスピードで走っている。

そんなミライに『バギイ』が負けるわけがなくすぐに追いつかれ全体重をのせた体当たりが彼の背中にヒットした。

「うおー！」

幸い体当たりはミライ本人ではなく彼のリュックに当たった。しかし当然彼はバランスを崩してこけてしまつた。

「ぐぼつ・・・おっ俺はおいしくなんかないぞーー！」

半ば投げやりになりながら起き上がり、後ろに後ずさるミライ。とその時後ろから足音がした。

「・・・おこーそこ」の足音のやつ！それ以上こひだて来るなー

しかし足音はどんどん大きくなつていいく。

「なにやつてんだよ！聞こえねえのかー早く戻れつてー」そこにはモンスターがいるんだよー！

そしてその足音の張本人が姿をあらわした。

そのハンターは素早い動きで彼の背中に装備されている双剣を取り出し今すぐにでもミライを食べんとする『バギイ』の首を簡単に切り裂いた。

「・・・なんだあんたハンターだつたのか・・・・・たつ・・・助かつた～」

とてつもなくマヌケな声を発するミライにハンターは双剣をしまいながら、

「君！ケガはないね！」

そう聞かれてミライは、

「ありがとうございます。大丈夫です。」

と答えた。

ここでミライがハンターに対して敬語だったのは、べつにミライの頭がおかしい訳ではなく、単にハンターといつ職業がみんなの憧れであり、ヒーローのようなものだからだ。

この世界ではハンターがいるだけでほとんどの事が解決してしまつ、  
そんな世界なのだ。

そして今回もそのハンターに解決してもらつたといつだけのはなし  
だ。

しかしそまだミライは知らない、これからおこる惨劇に。

## プロローグ？（後書き）

全体的にグダグダです。

多分これからつじつまが合わなくなることもあるでしょう。

そつとしておいてあげてください。

自己満足なんです。

プロローグ？（前書き）

2話目も連続で投稿します。

## プロローグ？

pm4時23分

凍土（ユクモ村付近）にて

偶然助けてもらったハンターと話していくとミライとハンターとの間には共通点があった。

それはこれからの行き先だ。

ミライはこれからユクモ村へ行くのだが、奇遇なことにハンターの方もこれからユクモ村へ行くそうだ。

そういうことから2人は一緒にユクモ村へ行くことになった。

歩きながら聞くハンターの話はとても素晴らしいかった。

狩猟先で砥石を忘れて必死で狩猟エリアを駆けずり回ったという話には爆笑だったし。仲間が死んでしまったという話を聞いたときにはすこしく悲しい気持ちになれた。

そしてミライもハンターに旅をしている時の感動的な話をしていてと不意にハンターが立ち止まり、とても悲しそうな顔で笑っていた。どうしたのだろう。

と、思っていたがそんな顔もすぐに消え、もとの笑顔に戻った。  
なんかマズイ事言っちゃったかな？と思つていたミライだったが、  
そんなことはすぐに忘れまた話だした。

そしてしゃべり疲れた2人がとても寒かつたのでホットドリンクを飲んでいると、ついにソレは現れた。  
ソレはふざけたようなバカデカイ声を発しながら2人に近づいてきた。

『恐暴竜』、それは出会つてしまつたら即撤退が鉄則のモンスター。そんなモンスターが現れてしまつたのだ。

「なつ・・・なんなんだ。このモンスターは・・・」

ついミライがつぶやいている中、ハンターは諦めたようなため息を吐いた後おもむろに彼の背中にある双剣を引きぬいて、

「早くその重い荷物を捨てて逃げる！－その荷物とお前の命どっちが大切だ！－」

と急に大きな声を出した。

急に言われてビックリしたミライは、言われるがままリュックを降ろした。

・・・とにかくミライは一つ気がついた。  
きっとこのハンターはこの『イビルジョー<sup>バケモノ</sup>』に勝つことができない。しかし自分を逃すためにあえて勝てない相手と戦おうとしているのではないか、と。

しかし、ハンターは何でもないようだ。

「大丈夫！なんとかなるさ！」

と、言っているが『イビルジョー』はコダレをダラダラ垂らしつつ今にも襲いかかりそうだ。

「絶対に追いつく！だから早く行け！」

そういうながら片っぽの剣を『イビルジョー』に投げた。その剣は見事にイビルジョーの片目に当たつた。ハンターってスゲー。

『イビルジョー』の雄たけびが凍土にこだまする。

「絶対に追いついて来いよー！」

そう言いながら全力で逃げ出すミライ。

ハンターの姿が見えなくなる。

ハンターのものであらう絶叫が響き渡る。

・・・どれだけ走ったのだろうか。

もう足の感覚がなくなっていた。

小高い丘の頂上で、ライは足を止めた。

意識がもつねりとしている。

「 もう 一 つ あ る 」

ホットドリンクを飲んでいるので凍え死ぬ」とは無いだろ？が、モンスターに襲われそうで怖い。

村までもう少しだ・・・そう思つたとき不意に足がもつれた。  
やばい。ここで二ナてしまつたらマジで死ぬ。

しかしミライはそのままひけて山を転がるよつに落ちてしまつた。

三ツの視界が狭くなつていく

そしてついにミライの意識が断絶した。

「良かつたー皿を覚ましたんですね！」

そんな二つのやつ声が聞こえる・・・  
すごい暖かい。やつかこには天国なんだなーとミライが超適当な事を  
を思つてゐる、

「すいません！早速で悪いんですけど、クエストがたまつてゐる  
です！」

・・・・・は？

「ちよつ、・・・え？」

ミライが混乱してゐる、

「ああ、ハンターさん、がんばつてこきましょー！」

ここは天国ではなくユクモ村である。

そしてミライはハンターになつてしまつていた。

## プロローグ？（後書き）

どうでしたか？  
感想待ってます。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6440z/>

---

モンスターハンター～偽者の剣～

2011年12月21日19時51分発行